

令和5年度 公益財団法人大分県スポーツ協会 第2回理事会

日時：令和5年9月6日（水）14時00分～  
場所：大分センチュリーホテル2階 桜の間

理事

出席者 岡本天津男 栗田 泰司 相馬 尊重 佐保 宏二 宮成 康蔵  
(25名) 伊東 剛 内海 秀昭 衛藤 賢 大久保邦彦 大場 俊二  
岡部 司 加藤 寛章 河村 美香 岐部 俊哉 佐藤 彰倫  
末吉 新治 西川 幸宏 荷宮 利孝 羽田野明美 牧 和志  
御沓 稔弘 森田 美穂 山田 美樹 柚木 徹 吉田 正史

欠席者 麻生 益直 石川 明德 川野 眞司 豊田 正順 村田 潤  
(5名)

監事

出席者 羽田野昭人 穴井 哲也  
(2名)

欠席者 古庄 健一  
(1名)

議事録作成者 専務理事 佐保 宏二

資格確認 押田総務部長が出席者理事25名で、定数の過半数であることから、本会定款第36条により、本会が成立することを報告した。

1 開式のことば

押田総務部長が開会のことばを述べた。

2 あいさつ

公益財団法人大分県スポーツ協会 岡本副会長が、あいさつを述べた。以下あいさつ文。

副会長の岡本でございます。麻生会長が所用により欠席のため、代わりましてご挨拶させていただきます。本日は、第2回理事会を開催いたしましたところ、皆様方には御多用の中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。また、平素から、本会の諸事業の推進並びに本県のスポーツ振興に格別の御支援と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、5月28日のカヌー競技を皮切りに本県で開催されました、鹿児島特別国体の代表権をかけた九州ブロック大会は、8月27日に全日程を終了いたしました。地元開催ということで、栗田副会長や相馬副会長をはじめ、理事の方々にも御対応いただきました。大変ありがとうございました。後ほど、事務局から詳細な報告があるかと思いますが、久々に代表権を獲得したソフトボール少年女子やバスケットボール少年女子、銃剣道少年男子など、最終的に27競技で54の代表権を獲得し、鹿児島特別国体での「天皇杯得点1000点」の挑戦権を得ることができたと考えております。惜しくも代表権を逃した競技も含め、猛暑の中、全力を尽くしていただいた関係の皆様にご心から感謝申し上げます。

いよいよ、9月16日から鹿児島特別国体の会期前競技が実施されます。「チーム大分」の目標達成に向けて、我々役員も選手とともに心をついに邁進していきたいと考えておりますので、一層の御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、本日は、九州ブロック大会の選手団や成績等に関する報告の他、今後の本会のあり方を見据えた「中期経営計画」に関して御審議いただくこととしております。限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

### 3 議長選出

以下、進行より、議長及び議事録署名について説明がなされた。

理事会規程第6条「理事会の議長は、会長がこれにあたる」となっておりますが、会長が欠席のため、定款第35条により、岡本副会長に議長をお願いいたします。

また、議事録署名については、定款37条に「出席した代表理事及び監事は、議事録に記名押印する」となっておりますので、その旨よろしく願いいたします。

以下、議長による進行。

### 4 報告事項

以下の報告事項について宮成常務理事兼事務局長より、説明がなされた。

- (1) 令和5年度事業報告（業務執行状況の報告）について（～9月1日）
- (2) 第43回九州ブロック大会大分県選手団について
- (3) 第43回九州ブロック大会成績について
- (4) 各種大会成績について（令和5年度第1回理事会以降）
- (5) 特別国民体育大会（鹿児島県）会期前実施競技の大分県代表団について

#### 【(1) 令和5年度事業報告（業務執行状況の報告）について（～9月1日）】

それでは、レジュメの1ページを御覧ください。レジュメ1ページから6ページにかけて、4月12日から8月30日までの事業についてご報告いたします。業務執行状況の報告も兼ねて、主な内容について御説明させていただきます。

まず、No. 1 4月12日に第1回九州地区スポーツ協会連絡協議会を本県で開催し、各県の課題や今後の方向性について協議いたしました。2ページをお開きください。No. 12 5月10日に大分県スポーツ少年団委員総会を開催し、令和5年度の新役員をはじめ基本方針、事業計画等を審議いたしました。その下、No. 18、19 5月17日に、臨時評議員会及び第1回理事会を開催いたしました。臨時評議員会で新役員の選出を行い、第1回理事会において会長・副会長・専務理事・常務理事の選定を行いました。3ページを御覧ください。No. 28 5月30日に大分県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会総会を開催し、事業計画及び収支決算、予算について協議いたしました。No. 33 6月9日に第1回スポーツ医科学委員会を開催し、スポーツ医科学の啓発に向けた事業計画を審議いたしました。4ページをお開きください。下段のNo. 43 6月26日に第43回九州ブロック大会夏季大会監督会議を開催いたしました。後ほど詳細については御報告いたしますが、7年ぶりの本県開催であり、選手強化はもちろん、円滑な大会運営についても取り組んでまいりました。6ページをお開きください。No. 70 8月26～27日に三和酒類スポーツセンターにおいて、第43回九州ブロックスポーツ少年団剣道交流大会が開催されました。九州各県から179名の団員が参加して交流を深めました。また、来年度は全国スポーツ少年団剣道交流大会を本県で開催予定となっております。今年度中には準備委員会を立ち上げて、万全の準備で迎えたいと思います。その他の事業については、後刻御確認ください。

以上、令和5年度事業報告でございます。

### 【(2) 第43回九州ブロック大会大分県選手団について】

レジュメは、7ページから18ページになります。第43回九州ブロック大会大分県選手について御報告いたします。国民体育大会の予選となる九州ブロック大会は、7月を中心とした夏季大会と、8月中旬以降の秋季大会の2ブロックに分かれて開催しております。

7ページを御覧ください。夏季大会には、カヌー競技など10競技で監督選手155名を大分県選手団として派遣いたしました。各競技の詳細は、8ページから10ページに掲載のとおりです。後刻御覧ください。

次に、秋季大会です。11ページを御覧ください。なぎなた競技など21競技で、監督選手547名を大分県選手団として派遣いたしました。各競技の詳細は12ページから18ページに掲載のとおりです。なお、選手団名簿については、申請時のデータで作成しております。大会時には若干の選手変更があつていることを申し添えます。

### 【(3) 第43回九州ブロック大会成績について】

次に、大会成績でございます。別冊でお配りしております、「成績」と記載された資料がございます。こちらは本大会の全成績を掲載しております。

「成績」資料の1ページを御覧ください。九州各県の国民体育大会への出場権となる代表権獲得数の一覧でございます。本県の代表権獲得数は54で、九州第4位でございます。上位は、来年度国民スポーツ大会を開催する佐賀県が日本代表クラスの選手を獲得するなど、選手強化を進めており、67の代表権を獲得。次いで福岡県が66でございます。ちなみに今年度国体を開催します鹿児島県は、開催県であることから全競技に出場する権利を有しています。

2ページ、3ページ、4ページは各県がどの競技で代表権を獲得したかの一覧でございます。資料の中の①の記載は、1位通過で代表権を獲得したことを表しています。②、③も2位通過、3位通過を表しています。4ページの下段、夏季・秋季合計の覧の、上位通過代表権数を御覧ください。太線黒枠で囲っているところが大分県でございます。本県は今大会、1位通過が21と、昨年度の15から大きく伸ばしております。また、その下の獲得競技数も昨年度の21競技から27競技と、伸ばすことができました。地元開催ということもあり、地の利を活かした戦いで成果を挙げることができたと考えております。詳細については後刻御覧ください。

なお、本大会には麻生会長をはじめ、副会長にも選手団の応援激励にご対応いただきました。折角ですので、栗田副会長、相馬副会長から、簡単に結構ですので九州ブロック大会視察の御感想をいただけますでしょうか。

#### 栗田副会長

8月27日にラグビーフットボールを激励させていただきました。地元の応援もあり、少年男子と成年男子が代表権を獲得しました。女子は、代表権を獲得することが出来なかったですけど、次回につながる戦いだったと思います。

私自身、久しぶりにスポーツ特有の緊張感を味わうことができました。試合後に選手の皆さんと話しをしましたが、スポーツは勝敗に関わらず、輝けるのだなと思ったのが印象的です。鹿児島国体も視察させていただきますので、選手の活躍を期待しています。

#### 相馬副会長

私の地元の由布市で開催されたラグビーフットボールとアーチェリーの視察をさせていただきました。ラグビーフットボールの試合では、応援した全ての試合で勝利をすることができました。雷雨の関係で最後まで観戦することができませんでしたが、大分県選手団がグラウンドで躍動する姿を見て私も力をもらいました。鹿児島国体でも、活躍を楽しみにしています。

ありがとうございました。以上が九州ブロック大会の御報告でございます。

【(4) 各種大会成績について（令和5年度第1回理事会以降）】

レジュメ19ページをお開きください。5月8日～8月31日までの期間、中学・高校・大学・社会人の各種全国大会や国際大会において、ベスト8以上の成績を、掲載しております。本日は全国・国際大会での優勝について御説明いたします。

19ページ中段、水泳のトヨタ所属の渡辺一平選手が、ヨーロッパグランプリのカネ大会、バルセロナ大会、モナコ大会において、いずれも男子200m平泳ぎで、優勝いたしました。なお、その後開催されました世界水泳福岡大会2023で、6位入賞を果たしています。

20ページをお開きください。ウエイトリフティングの全国高等学校総合体育大会、いわゆるインターハイで、宇佐高校の藤原菱選手が男子102kg級で優勝いたしました。

その下、自転車のJOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会で、別府翔青高校の小岩虎ノ介選手が、男子ケイリンで優勝いたしました。

21ページを御覧ください。相撲の第9回全国女子相撲選抜ひめじ大会で、東九州龍谷高校の矢口愛利菜選手が、中学高校の中量級で優勝いたしました。

下段記載のライフル射撃、第49回全日本ライフル射撃競技選手権大会で、大分市役所の礒部直樹選手が男子3姿勢60発において日本新記録で優勝、また男子伏射60発も優勝し、2種目優勝を果たしました。

次に、全日本ライフル射撃競技選手権大会で、明治大学の野畑美咲選手が女子10mエアライフル60発と、混合10mエアライフル60発の2種目優勝を果たしました。なお、22ページ上段に記載しておりますが、野畑美咲選手はドイツで開催された、ジュニアワールドカップにおいて、銀メダルを獲得いたしました。

23ページを御覧ください。空手道、KARATE1プレミアリーグ福岡2023で、大分市消防局の大野ひかる選手が優勝いたしました。

優勝者以外にも、多くの選手・チームが全国の舞台で活躍をしてくれました。引き続き、本県関係選手の活躍を期待したいと思います。以上でございます。

【(5) 特別国民体育大会（鹿児島県）会期前実施競技の大分県代表团について】

レジュメ24ページをお開きください。特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」会期前実施競技の選手団を御報告いたします。

10月7日から17日まで鹿児島国体の本日程が予定されていますが、それに先立ち、会期前実施競技が9月16日～24日に鹿児島県で行われます。

実施競技は6競技で、水泳（競泳・飛込・水球・オープンウォータースイミング）、ローイング（旧ボート競技）、バレーボール（ビーチバレー）、体操（新体操・体操競技）、レスリング、ゴルフでございます。

記載の通り、選手団が決定しておりますので御報告いたします。監督、選手総勢88名、詳細については記載の通りでございます。以上でございます。

《岡本議長が、上記のことについて議場に質疑を求めた》

《質疑無し》

5 議事

以下の議案について宮成事務局長より、説明がなされた。

議案1 中期経営計画について

【議案1 中期経営計画について】

それでは、レジュメの26ページを御覧ください。本会の中期経営計画について、御説明いたします。

まず中期経営計画を作成するにあたり、これまでの経過について簡単に御説明いたします。本計画以前に、大分県スポーツ協会中期経営計画2018-2022が策定されておりました。後ほど御説明いたしますが、計画策定の結果がどうだったのか、計画に対する実績評価を行いました。また、令和5年3月に策定された日本スポーツ協会のJSPO中期計画2023-2027の施策の方向性、進捗スケジュール等を確認しました。同様に、令和3年3月に策定された第2期大分県スポーツ推進計画も再度確認いたしました。また、先見的な取り組み事例や外部からの客観的な意見を反映させるために、スポーツ団体のマネジメント実績のある株式会社ジャパンアスリートキャリアサポートセンターとアドバイザー契約を結びました。

次に計画作成にあたり、自主財源確保に向けた他県調査を実施いたしました。また県内企業を対象としたヒアリングも実施いたしました。そして先程御説明したジャパンアスリートキャリアサポートセンターとの協議も実施し、中期経営計画の作成に至りました。

それでは本計画に入る前に、お配りしています別冊資料、自主財源確保に向けた他県調査について御説明いたします。表紙に朱書きで記載されている資料です。まず、中期経営計画では、今後5年間の取り組むべき内容を提示いたしますが、その前提となるのが財源の確保でございます。財源があって、はじめて新たな施策に取り組み、そこに必要な人材の確保も可能となりますことから、自主財源確保に向けた他県調査を実施いたしました。

1ページをお開きください。1ページには、人口数上位10都道府県のスポーツ協会自主財源となる賛助会及び寄付金額の状況を示しています。1000万円を超えているのが大阪府、埼玉県、福岡県でございます。人口の多い県においても、1000万円を超えて自主財源を確保できている都道府県が少ない状況でございます。

2ページを御覧ください。こちらは九州各県スポーツ協会の状況でございます。熊本県、佐賀県、福岡県が1000万円を超えています。熊本県の2467万円については、調査した都道府県で最も多い金額でございます。また福岡県については、例年は800万円程度だということですが、昨年度は福岡県内の方から500万円の賛助会費をいただいた関係で、1300万円になったということでした。

3ページをお開きください。次に、1000万円以上の自主財源を確保している都道府県を更に調査してみますと、特徴として賛助会以外の寄付金の仕組みを整備している状況がございました。名称はそれぞれですが、特別賛助会や免税募金、基金寄付金でございました。なお、福岡県については御説明した通り、昨年度のみ、500万円の賛助会費があったとのことですので、この後の対象から外させていただきます。4ページを御覧ください。大阪府ですが、賛助会と特別賛助会の2つの制度を活用しています。特徴は、特別賛助会の金額を企業は20万円、競技団体は10万円と指定している点でございます。5ページをお開きください。埼玉県ですが、賛助会と免税募金の2つの制度を活用しています。特徴は、日産自動車系の企業が1社で600万円寄付している点でございます。6ページを御覧ください。熊本県ですが、個人は賛助会、企業は免税募金としています。特徴としては、地元の肥後銀行が筆頭となり、300万円、100万円、50万円等の高額の免税募金を集めている点でございます。7ページをお開きください。佐賀県ですが、賛助会とSSP基金寄付金の2つの制度を活用しています。来年度、国民スポーツ大会の開催を控えている関係もあり、県がSSP基金パートナー企業制度を構築して、そこからスポーツ協会に寄付する仕組みとなっています。

8ページを御覧ください。こちらは財源確保に向けた各県スポーツ協会の業務方法について整理しました。大阪府はスポーツ協会理事が手分けして担当、埼玉県はスポーツ協会事務局が担当、熊本県はスポーツ協会財務特別委員会が担当、佐賀県は知事を筆頭に県幹部が担当している状況でございました。

9ページをお開きください。こちらは自主財源確保に向けて、県内企業のヒアリングを実施した内容でございます。御協力いただきました2社様ですが、豊後木材市場様は本会の賛助会の最も高額な会員様、ジェイリース株式会社様は、御対応いただいた榎部長様の前職が、トリニータフットボールクラブの代表取締役であり、協賛企業集めの御経歴があることから、ヒアリングを御依頼させていただきました。様々な御意見をいただきましたが、同様の指摘を3点いただきま

した。

まず1点目は、賛助会及び寄付として、100万円以上は、県内企業の状況では現実的に難しいという点。2点目は、賛助会や寄付としてよりも、広告費として会社経費にできる仕組みが良いということ。3点目は、応援してくれる企業の交流会を開催して、企業同士の仕事につながる場を提供することの3点でございました。

また、課題としては2点ございます。1点目は、賛助会制度を残したまま、広告契約の仕組みができるか。これは本会ホームページに賛助会団体会員の企業名を既に掲載しております。そこと広告企業をどのように整理するかという点でございました。2点目は、広告営業の時間・人材の確保でございます。受け取る金額が大きくなると事務局だけの対応では限界があり、代表理事、業務執行理事等の御協力をいただくなど、トップセールスが必要であることから、その体制が可能かという2点でございました。

以上、都道府県スポーツ協会の自主財源確保に向けた取り組み、また県内企業様とのヒアリングの御報告でございます。

一旦、ここまでの説明について、何か御質問等がございましたらお受けいたします。

《質疑無し》

それでは中期経営計画2023-2027を御提案いたします。2ページをお開きください。本会についての説明でございます。(1)昭和21年10月に大分県体育会として発足し、昭和25年に大分県体育協会を設立。平成23年度から公益法人に移行し、令和2年4月に公益財団法人大分県スポーツ協会に名称を改めました。定款に基づき、(2)には本会の目的、(3)には目的を達成するための7つの事業を掲げています。

3ページをお開きください。本計画の位置づけ・策定趣旨でございます。(1)～(3)については読み上げて御説明いたします。

(1)日本スポーツ協会は、2011年に公表した「スポーツ宣言日本」に基づき、心からスポーツを楽しみつつも、スポーツで培った力を社会に還元することを目指し「JSPO中期計画2023-2027」を策定した。本会としても、日本スポーツ協会の方針、また2021年に策定された「第2期大分県スポーツ振興計画」を鑑み、本県のスポーツ振興に寄与する計画とする。

(2)本会が策定した「公益財団法人大分県体育協会中期経営計画(2018-2022)」では、2012年からの5年間の赤字決算を鑑みて、本会の経営状況の改善に主眼を置いた計画とした。事業の見直しや経費節減をはじめ、加盟団体分担金の改定や賛助会員の増加に取り組み、経営状況の改善を達成した。

(3)このような状況の中、「中期経営計画2023-2027」では、新たな時代に応じた多様なスポーツニーズに対応することが求められていることから、財政基盤の確立を図り、新たな組織体制を整備する中で、重点項目の達成に取り組むものとする。

以上が、位置づけ・策定趣旨でございます。

4ページを御覧ください。昨年度末で終了しました中期経営計画2018-2022の実績でございます。赤字で囲っております、経常収益・目標及び実績を御覧ください。中期経営計画2018-2022では、2012年から5年間の赤字決算を踏まえ、本会の経営状況の改善に主眼を置いた計画とし、事業の見直しや経費節減をはじめ、加盟団体分担金の改定や賛助会員の増加に取り組み、経営状況の改善を達成したと結論づけました。なお最終年の2022年度では、目標を1,782千円上回ることができました。

特徴としては、内訳にございますが、①受取加盟金、②スポーツ少年団登録料については人口減少の影響もあり、加盟団体員、登録者の減から、目標を達成できませんでしたが、③受取賛助会費については、企業様への御案内を強化したことで法人会員の大幅な増加につながり、最終年度目標を、239万5千円上回りました。それが最終的に経営状況の改善を達成した要因となっております。その他については後刻御覧ください。

次に6ページを御覧ください。本計画の具体的な施策、重点事項を御提案する前に、先程も申しましたが、何より財政基盤の確立が重要でございます。現在、中学校運動部活動の地域移行、総合型地域スポーツクラブ登録認証制度の導入、スポーツ少年団の改革等、急激な人口減少もあり、地域スポーツを取り巻く環境は大きな転換点にある状況でございます。地域スポーツの最適化に向けて、本会はこれまで以上の役割を担うため、更なる財政基盤の確立を目指し、その財源をもって新たな事業展開、また業務体制の構築を図ることといたします。

取り組みとしては、経常収益増に向けたパートナー企業制度（仮）を新たに導入することと、これまでと同様、賛助会制度を推進することの2点でございます。下段に記載していますスケジュールですが、2023年度中にパートナー企業制度の研究を進め、2024年度は契約に向けた営業活動をスタートさせます。そして、最終年度となる2027年度には、パートナー企業制度と賛助会制度で、目標の1000万円を達成する計画でございます。なお、2022年度が639万5千円でございますので、新たな制度構築で大幅な増加を目指します。またこの達成状況に応じて、取り組みの3つ目に記載していますが、新たな時代に対応できる事務局体制の構築、具体的には本会職員の人材採用にも繋げられるよう取り組みます。

7ページをお開きください。経常収益増に向けた具体案でございます。先程御説明したとおり、スポーツ大分パートナー企業制度を創設します。パートナー企業には、本会主催大会である、県スポーツ少年団駅伝交流大会の協賛企業広告、例えば、コース上に企業名を掲載したフィールド看板掲載や、ゴールテープ上に冠企業看板を掲載する、また、本会ホームページへのバナー広告、更には、各種会議、イベントでの広告掲載等を実施します。広告費については、年間50万円程度を最高額として、30万、20万、10万と金額設定することを原案といたします。今年度中に制度の研究を更に進め、原案をブラッシュアップし、来年度から企業様に御提案いたします。

8ページを御覧ください。本計画では、我々大分県スポーツ協会の存在意義・使命となるミッション、また本会が2027年に目指す姿であるビジョン、そしてそれらミッション・ビジョン達成のための重点項目となるバリューを設定いたしました。ミッションは「自分らしくスポーツを楽しめる地域社会の創造」として、時代の変化に伴い、多様なスポーツの在り方を通して自分らしく楽しめる地域社会を創造することといたしました。ビジョンは「スポーツを「する・みる・支える」ためのハブ（結節点）となり、地域スポーツ活性化のエンジンとなる」として、本会が全てのスポーツ団体、またスポーツに携わる県民とのハブとなり、本県スポーツ界を活性化することを目指します。そしてバリューは「4つの柱で構成し、これからのスポーツ界の在り方を創造した上で、日本スポーツ協会が示す変革に挑むもの、また本県スポーツ振興計画の目標に挑むもの」を重点項目といたしました。

9ページをお開きください。重点項目の具体的な施策でございます。取組内容については、10ページから13ページに具体的内容及びスケジュールに記載しています。

10ページを御覧ください。重点項目1 世界に羽ばたく選手の育成でございます。施策としては、本県選手が、国民体育（スポーツ）大会に向けた競技力向上の取り組みを通して、オリンピックなどの国際大会で活躍する選手が育成できるよう、日常の強化拠点となるチーム等を指定し、競技団体や学校体育団体、企業等と連携した選手強化の取組を推進します。前回大会である東京オリンピックには、本県ゆかりの選手が9名出場いたしました。陸上競技の兒玉芽生選手をはじめ、国民体育大会の選手育成を通じて育った選手たちが日本代表となり、世界に羽ばたいてくれました。

取り組みでございますが、県の競技力向上対策本部と施策を整理し、本会としては、1点目は、日常の拠点となる高校・企業・クラブチームを強化指定し支援する。2点目は競技特性に応じたコーチ・トレーナーの派遣。3点目は競技用具の計画的な購入やジュニア選手の発掘を支援するなど、競技力向上のための基盤整備に取り組んで参ります。本会の目標である国民体育大会での天皇杯得点1000点獲得という高い目標に競技団体と共に挑むことで、ジュニア期からの一貫指導体制など、選手強化のシステムを高めていきます。

続いて11ページをお開きください。重点項目2 スポーツ少年団組織の発展です。まずは、日本スポーツ協会が示しているスポーツ少年団の方向性について簡単に御説明いたします。日本

スポーツ協会は、急激な人口減少に伴い、中学校の運動部活動をはじめジュニアスポーツを取り巻く環境について、強く課題意識を持っています。その点を踏まえて、第3期スポーツ基本計画及びスポーツ少年団改革プラン2022で、「スポーツ少年団をジュニアユーススポーツの統括組織へ体制強化する」として、ジュニアユーススポーツ憲章の策定を計画しています。JSPPO中期計画に示されているスケジュールでは、2023年から2024年で原案を策定し、2025年度中に正式決定となっています。現段階ではスポーツ少年団の改革は決まっているものの、これから2年間で検討するため、具体的取り組みは決定していない状況です。但し、方向性として、1つ目は、スポーツ少年団を小学生で卒団ではなく、中学生まで活動することを推奨している点、2つ目は、総合型地域スポーツクラブの連携統合に向けて取り組む点を示しています。以上を踏まえて、本会としては2025年度のジュニアユーススポーツ憲章策定に先立ち、小学生以降もスポーツ少年団に関わる体制作りを進めていきます。

具体的には、現行のリーダー制度を活用し、中学生以降もスポーツ少年団活動に取り組めるよう、環境整備を推進します。取り組みとしては、1点目はスポーツ少年団指導者に対して、リーダー制度を周知します。2点目は小学校5、6年団員のジュニア・リーダースクール参加を促進し、中学生以降のスポーツ少年団加入を増加させます。3点目はリーダー会活動を活性化させ、シニア・リーダー資格取得者の指導者移行にもつなげることです。下段のスケジュールの上から2列目を御覧ください。今年度、中学生リーダーの受け皿として大分リーダークラブを設立します。現状では、スポーツ少年団単位団の多くが、小学校卒業と同時に卒団し、中学生までの活動を受け入れていません。そこで所属先のない中学生で、リーダー活動を希望する団員に対して、本会が設立した大分リーダークラブに所属し活動できるよう受け皿を作り、活動を推進します。中学生がリーダーとして小学生のスポーツ活動をお手伝いしたり、自身もそのスポーツ少年団でプレーしたりできる環境につなげていきます。

12ページを御覧ください。重点項目3 総合型地域スポーツクラブの充実です。施策としては、令和6年度より、総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度が本格運用されます。本県では、連絡協議会への登録を促進し、資格取得者の養成や、認証制度の活用等をサポートしながら登録クラブの質の向上に寄与することで、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の充実を目指します。取り組みとしては、1点目は、令和4年度に設立された総合型地域スポーツクラブ連絡協議会登録によるメリットを創出して、登録を促進します。先進事例の研修事業やガバナンス強化、指導者研修等を提供できるよう取り組みます。2点目は、アシスタントマネージャー等、資格取得者の養成を促進し、クラブの質向上を図ります。3点目は、日本スポーツ協会の認証制度を周知し、活用を促します。総合型地域スポーツクラブが、地域スポーツの中で担う役割は大きくなっています。日本スポーツ協会の登録認証制度に対応しながら、総合型地域スポーツクラブを地域に根付かせるよう本会として取り組んでまいります。

13ページをお開きください。重点項目4 スポーツ医科学の更なる普及でございます。平成元年に本会の専門委員会としてスポーツ医科学委員会が設立され、これまでスポーツ医科学の知見を活用し、本県の競技力向上に大きく寄与してきました。今後の施策としては、ライフステージに応じたスポーツ医科学の活用でございます。これまでは、競技者に重点を置いたスポーツ医科学の活用を推進してきましたが、これからは最新のスポーツ医科学の知見を活用した事業の充実を図り、ジュニア選手の障害予防や、高齢者の健康の保持増進を推進します。また、これまで同様に、競技団体等と連携・協力し、競技力向上に向けた、スポーツ医科学事業に取り組むことにより、更なる選手強化に繋がります。

取り組みとしては、1点目は、スポーツ少年団を対象に外傷・障害防止研修を実施します。2点目は医科学研修講座の活用を推進し、様々な年代や地域の課題解決に向けた研修として健康の保持増進に繋がります。3点目は競技力向上に向けて、強化選手等にメディカルチェックを実施し、専門家からの指導を受けるよう取り組みます。下段のスケジュール3列目にはございますが、競技力向上に向けたメディカルチェックでは、実施後にスポーツドクターによる結果説明を実施、その後、更に必要がある選手に対しては個別指導も実施、その上で、アンケートを実施して、選手自身の意識の変化の把握、更には本事業のブラッシュアップにも繋げるサイクルの構築に取り組

みます。

重点項目は以上でございます。

最後に14ページを御覧ください。これは令和5年度の本会組織図になります。急激な人口減少や高齢化など、時代の変化に応じた、新たなスポーツ環境の構築が求められています。日本スポーツ協会も改革の必要性を訴え、組織改革に取り組んでいます。冒頭申し上げましたように、我々大分県スポーツ協会もまずは財政基盤を確立し、変化に対応できる組織作りに取り組んでまいります。以上で中期経営計画の説明を終わります。

《岡本議長が、上記のことについて議場に質疑を求めた》

#### 牧理事

2年間でこのプロジェクトを完成させるのは、なかなか厳しいのではないかなと感じています。運動部活動の地域移行も近年の課題となっていますので、そちらも注視しながら活動をしていきたいと考えています。

#### 羽田野理事

1点目は、予算についての話がありましたが、取り組みに対してどれくらいの予算を検討しているのか。2点目は、運動部活動の地域移行についてですが、私の専門種目が陸上競技ですので、スポーツクラブや総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団などが、今後どのように関わっていくか教えてください。

#### 宮成事務局長

まずは予算についてですが、本会は、自主財源と大分県からの補助金で運営を行っております。現状、選手強化については、2億円程度の予算を使っていて、1億5千万円が残りの事業となっております。今後はこれに加えて、300万円から500万円程度を自主財源で確保したいと考えております。事業の見直し等も行いまして、地域のスポーツ団体もサポートしていきたいと考えています。

2点目については、日本スポーツ協会が方向性を示しております。スポーツ少年団の改革を行うにあたって、クラブチームやスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなどのジュニア育成を行う部門が、連絡協議会を設置して情報交換をしていくとしています。各部門、各セクションにおいて、統一したジュニア育成の方向性を共有するようになっていきます。各団体が合併して一つの団体になることはありません。あくまでも、各団体は各団体のままで強化や普及を進めていくような形です。

《その後、質疑無し》

《岡本議長が、上記のことについて承認を議場に諮った》

《全会一致で承認された》

## 6 その他

以下の内容について宮成事務局長より、説明がなされた。

- (1) 特別国民体育大会大分県代表団結団壮行式について
- (2) 令和5年度ガバナンス研修会について

その他について、一括して説明いたします。

まず(1)の特別国民体育大会大分県代表団結団壮行式についてです。「燃ゆる感動かごしま

国体」大分県代表団の団結を図るため、9月29日14時から、レゾナック武道スポーツセンターにおいて、開催いたします。既に、皆様に御案内文書をお送りさせていただいております。

次に、(2)令和5年度ガバナンス研修会についてです。本年度の研修会を、10月29日に開催予定としております。内容・会場について調整中でございます。講師については、現在、日本スポーツ協会の岩田史昭常務理事兼事務局長に依頼しているところでございます。岩田事務局長は大分県出身でございます。本県出身者が日本スポーツ協会事務方トップに就任し、御活躍でございますので、これからの日本スポーツ界について御講演いただければと思ひ、依頼しているところでございます。詳細決定次第、役員の皆様にも御案内をさせていただきます。

最後に、その他の項には記載しておりませんが、2点連絡をお願いします。

1点目が、賛助会についてです。レジュメの裏表紙に賛助会員の加入状況を掲載しております。引き続き会員の募集に取り組んでまいりたいと思ひますので、理事の皆様も是非御入会くださいますようお願い申し上げます。申込書もございますのでお声かけください。

2点目は、大分県スポーツ協会ゴルフコンペの御案内です。11月25日に、別府の森ゴルフ倶楽部で開催いたします。毎年開催しておりますが、理事の皆様方も御都合よければ、是非御参加ください。申込みは事務局までお声かけください。以上でございます。

《岡本議長が、上記のことについて議場に質疑を求めた》

《質疑無し》

#### 7 閉会のことば

押田総務部長が閉会のことばを述べた。

令和5年9月6日

副会長 岡本天津男

副会長 栗田泰司

副会長 相馬尊重

監事 羽田野昭人

監事 穴井哲也